

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 10 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2011～2014

課題番号：23242039

研究課題名(和文) ロシア・中国を中心とする在外日本関係史料の調査・分析と研究資源化の研究

研究課題名(英文) Research on the analyzing and utilization of Historical Materials relating to Japan mainly owned in China and Russia

研究代表者

保谷 徹 (HOYA, Toru)

東京大学・史料編纂所・教授

研究者番号：60195518

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 26,000,000円

研究成果の概要(和文)：19世紀を中心とする中国・ロシア所在日本関係史料の体系的収集と分析を進め、当該史料をめぐる国際共同研究を推進して5回にわたる国際研究集会を開催するなど、中国・ロシア所在の一次史料の調査・分析と収集をおこなった(2011～13年度)。また、収集した海外史料のデジタルアーカイブ化をはかる方策を検討し、学術資源化・公開利用をはかった。この課題は、最終年度(2014年度)に新たに採択された基盤研究(S)「マルチアーカイブ的的手法による在外日本関係史料の調査と研究資源化の研究」(2014～18年度)に引き継がれた。

研究成果の概要(英文)：We have made a systematic research on the historical materials mainly of the 19th century relating to Japan owned in China and Russia, and promoted the international collaboration on historical materials concerned, and held the international symposiums five times from the year of 2011 to the 2013. We have examined about schemes to construct a digital archive of the historical materials relating to Japan owned in foreign countries, and making these historical materials open to the academic world. New Scientific Research(S): "Researching the collection and utilization of overseas Japan-related sources through multi-archival methods (2014- 2018)" have succeeded to these themes from the year of 2014.

研究分野：日本史

キーワード：日本史 史料 国際研究者交流:ロシア 国際研究者交流:中国 倭寇 アイヌ交易 デジタルアーカイブズ 前近代史

## 1. 研究開始当初の背景

先行研究において、欧米諸国に比して調査研究が不十分だった中国・ロシア所在日本関係史料に関し、現地の研究者・研究機関との共同研究を推進し、体系的な史料調査・収集に一定の成果を挙げてきた。この成果を継承して継続的な調査・研究をさらに進展させるとともに、研究所がこれまで世界中から収集した在外日本関係史料のデジタル化による研究資源化の方策を探る段階に入った。これが本研究に取り組む直接的な背景となった。

## 2. 研究の目的

本研究は、ロシア・中国に所在する日本関係史料の体系的な調査・収集と分析、解読・翻訳を推進すること、ロシア・中国における史料保存機関や日本学研究者との協力関係を築き、日本関係史料に関する国際研究集会を開催して共同研究を実施すること、ロシア・中国において収集した史料群を含め、史料編纂所が所蔵する海外史料マイクロフィルムのデジタルアーカイヴズ化に対する試験的な取り組みに着手、在外史料の集積と分析にもとづくマルチアーカイヴル研究の成果をあげること、収集した史料画像と史料情報を研究者の利用に供し、研究成果をひろく公開していくことを目的とする。

## 3. 研究の方法

研究を統括する事務局の下に、ロシア班、中国班、在外史料デジタルアーカイヴズ班を置き、現地の研究者・研究機関と連絡をとりあって、史料調査と共同研究をすすめ、国際研究集会を実施した。ロシア班では、研究協力協定を結んだロシア国立歴史文書館、ロシア国立海軍文書館、ロシア科学アカデミー東洋古籍文献研究所（以上、サンクトペテルブルグ市）との協定に依拠して共同研究を進めた。日本学士院のUAI 関連事業と連携してロシア研究者の招聘と国際研究集会の開催を実施した。中国班は、倭寇図像をめぐって研究協定を結んだ中国国家博物館（北京市）と連携して、倭寇図巻（東京大学史料編纂所蔵）・抗倭図巻（中国国家博物館所蔵）等の共同研究をすすめた。デジタルアーカイヴズ班では、既収集史料のマイクロフィルムのデジタル化をすすめ、データベース化の方策を探るものとした。

## 4. 研究成果

本科研の最終年度（2014年度）は、その前年度申請による継続科研（基盤研究S「マルチアーカイヴル的手法による在外日本関係史料の調査と研究資源化の研究」）に承継されたため、以下は2011～2013年度までの3か年の成果をまとめる。

(1) ロシア史料の調査収集と共同研究：帝政ロシアの中央政府史料をおさめるロシア国立歴史文書館・ロシア国立海軍文書館の日本関係史料について、系統的な調査・収集を実施した。19世紀初頭の北方紛争によって日本から持ち去られた、ロシア国立軍事史博物館のフランキ砲2門の詳細な調査をおこなった。また、サンクトペテルブルグ国立図書館ではレザノフ日誌の手稿原本のデジタルデータを調査・収集した。そのほか、ロシア科学アカデミー東洋古籍文献研究所・同人類学民族学博物館（クストカメラ）・エルミターージュ美術館・サンクトペテルブルグ市映画写真映像文書館などの調査を行った。

(2) 史料展示とラウンドテーブルの開催：ロシア国立歴史文書館を会場として、史料編纂所・歴史文書館・海軍文書館・在サンクトペテルブルグ日本総領事館共催による日露関係史料研究をめぐるラウンドテーブルを実施し、日露関係史の史料展示会を開催した（会期2011年9月20日～10月20日、参観者1300名）。なおこの様子はロシア現地で大々報道された。

(3) 倭寇図像に関する調査収集と共同研究：中国国家博物館（北京市）が所蔵する抗倭図巻・平番得勝図巻・太平抗倭図などの調査と共同研究、倭寇図に関係する現地調査、山東省博物館の調査を実施した。

(4) 国際研究集会の開催：上記のロシア・中国、さらにドイツ語圏の日本関係史料に関連して計5回の国際研究集会を開催したそのうち、「日露関係史料をめぐる国際研究集会」は、東京大学史料編纂所と日本学士院との共催で実施した。「倭寇図像をめぐる国際研究集会」は共同研究拠点特定共同研究の倭寇画像プロジェクトと連携した。上記研究成果を踏まえ、東京大学史料編纂所第36回史料展覧会「東アジアと日本、世界と日本」の開催に協力し、倭寇図像研究のパネル展示を実施した（2013年11月、参観者1300名）。

(5) ロシア科学アカデミー東洋古籍文献研究所との共同研究：19世紀初頭サハリン・アイヌとの交易帳簿2点の共同研究を実施し、解読・翻刻（原本校正）・ロシア語翻訳研究をおこなった（2012年10月、同研究所が主催するネフスキー記念国際シンポで報告）。

(6) ロシア国立海軍文書館が所蔵するリハチョフ提督（1861年ポサードニク号事件当時の海軍司令長官）の日誌の翻訳研究を実施した。

(7) 在外日本関係史料のデジタルアーカイヴズ化：史料編纂所が所蔵する海外マイクロフィルム150万コマのうち、別途経費によってデジタルスキャンを進め、ロシア・中国の収集史料とともにメタデータ付与等、デジタルアーカイヴズ化の方策を検討し、これを中心課題とする大型経費を最終年度の前年度申請として行った。

(8) その他、研究成果の公開：国際研究集会の報告は随時『東京大学史料編纂所研究紀

要』に掲載したほか、調査収集した史料は『大日本古文書』幕末外国関係文書、あるいは『世界史史料』12、日本と世界（岩波書店）などに翻訳を収録して公開発表した。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 28 件)

保谷 徹、戊辰戦争の軍事史、明治維新史学会編『講座明治維新』3・維新政権の創設、査読無、2011、pp.21-56。

保谷 徹、近世近代移行期の軍隊と輜重、『歴史学研究』882、査読有、2011、pp.14-25。

神田高士、ロシア国立軍事史博物館所在の子砲式後装砲について、『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』56、査読無、2012、pp.13-20。

須田牧子、《蒋洲咨文》浅探、中国国家博物館『中国国家博物館館刊』2012年第1期、査読無、2012、pp.31-38。

陳 履生、『太平抗倭図』的芸術特点、中国国家博物館『中国国家博物館館刊』2012年第1期、査読無、2012、pp.16-30。

鹿毛敏夫、『抗倭図巻』『倭寇図巻』和大友義鎮、大内義長、中国国家博物館『中国国家博物館館刊』2012年第1期、査読無、2012、pp.39-52。

須田牧子、『倭寇図巻』再考、『東京大学史料編纂所研究紀要』22、査読無、2012、pp.191-199。

朱 敏、『明人抗倭図巻』を解説する「倭寇図巻」との関連をかねて、『東京大学史料編纂所研究紀要』22、査読無、2012、pp.200-217。

陳 履生、功績の事実と事実の記録：明人「抗倭図巻」研究、『東京大学史料編纂所研究紀要』22、査読無、2012、pp.218-230。

保谷 徹、施条銃段階の軍事技術と戊辰戦争 土佐藩を素材に、箱石大編『戊辰戦争の史料学』勉誠出版、査読無、2013、pp.89-108。

保谷 徹、史料紹介・戊辰戦争期の会津藩による鉾山リース契約、箱石大編『戊辰戦争の史料学』勉誠出版、査読無、2013、pp.89-108。

須田牧子、『蒋洲咨文』について、『東京大学史料編纂所研究紀要』23、査読無、2013、pp.289-295。

鹿毛敏夫、『抗倭図巻』『倭寇図巻』と大内義長・大友義鎮、『東京大学史料編纂所研究紀要』23、査読無、2013、pp.296-307。

陳 履生、『太平抗倭図』の芸術上の特徴、『東京大学史料編纂所研究紀要』23、査読無、2013、pp.308-315。

馬 雅貞、戦勲と官績、『東京大学史料編纂所研究紀要』23、査読無、2013、pp.316-347。

山崎 岳、張鑑「文徵明画平倭図記」の基礎的考証および訳注、『東京大学史料編纂所研究紀要』23、査読無、2013、pp.348-365。

ペーター・パンツァー、ドイツとオーストリアの文書館における日本関係史料、『東京大学史料編纂所研究紀要』23、査読無、2013、

pp.366-374。

谷本晃久、ロシア科学アカデミー東洋古籍文献研究所サハリンアイヌ交易帳簿の研究概報 19世紀初頭アニワ湾岸地域における交易のすがた、『東京大学史料編纂所研究紀要』24、査読有、2014年、pp.53-62。

須田牧子、『倭寇図巻』研究の現状と課題 趣旨説明にかえて、『東京大学史料編纂所研究紀要』24、査読無、2014年、pp.121-126。

山崎 岳、『乍浦・沈荘の役』再考 中国国家博物館所蔵『抗倭図巻』の虚実にせまる、『東京大学史料編纂所研究紀要』24、査読無、2014年、pp.127-134。

②朱 敏、『平番得勝図巻』考略、『東京大学史料編纂所研究紀要』24、査読無、2014年、pp.135-157。

②陳 履生、『標題』から『平番得勝図巻』を読む、『東京大学史料編纂所研究紀要』24、査読無、2014年、pp.158-175。

③セルゲイ・チェルニャフスキー、ロシア国立海軍文書館史料にみられる海軍専門用語について、『東京大学史料編纂所研究紀要』24、査読無、2014年、pp.176-193。

④アレクサンドル・ソコロフ、ヤルトロフスク市保存フォンド保管センターから返還されたロシア国立歴史文書館史料について、『東京大学史料編纂所研究紀要』24、査読無、2014年、pp.194-208。

⑤ワジム・クリモフ、1862年の日本使節 ドイツからロシアへの旅、『東京大学史料編纂所研究紀要』24、査読無、2014年、pp.209-223。

⑥セルゲイ・チェルニャフスキー、ロシアにおける沿海州獲得とウラジオストク港の建設（ロシア海軍文書館文書より）、『東京大学史料編纂所研究紀要』24、査読無、2014年、pp.224-231。

⑦ワジム・クリモフ、リハチョフ・イヴァン・フォードロヴィチ（1826-1907）-艦隊司令長官・学者・人間、『東京大学史料編纂所研究紀要』24、査読無、2014年、pp.232-246。

⑧アレクサンドル・ソコロフ、有栖川宮のロシア訪問と「宮廷外交」、『東京大学史料編纂所研究紀要』24、査読無、2014年、pp.247-257。

〔学会発表〕(計 4 件)

谷本晃久、サハリン・アイヌ交易帳簿の世界、ニコライ・ネフスキー生誕120周年記念国際シンポジウム、2012年10月04日、ロシア科学アカデミー東洋古籍文献研究所（サンクトペテルブルク市）

ワジム・クリモフ、魯人再掠蝦夷一件、ニコライ・ネフスキー生誕120周年記念国際シンポジウム、2012年10月04日、ロシア科学アカデミー東洋古籍文献研究所（サンクトペテルブルク市）

保谷 徹、帳簿の『発見』と共同研究プロジェクトの経過、共同利用・共同研究拠点研究集会「日本史史料共同研究の新たな展開」、2012年10月13日、東京大学史料編纂所。

谷本晃久、ロシア科学アカデミー東洋古籍

文献研究所サハリン・アイヌ交易帳簿の研究概報 帳簿にみえる交易のすがた、共同利用・共同研究拠点研究集会「日本史史料共同研究の新たな展開」、2012年10月13日、東京大学史料編纂所。

前記国際研究集会5件は除く。

〔図書〕(計1件)

歴史学研究会編(保谷 徹共編・解説・翻訳)『世界史史料』12巻・日本と世界、2013、岩波書店、330頁。

〔その他〕報道14件

報道関連：イタルタス通信2011年9月20日「18-19世紀日露関係史料展示会を開催」、ノボスティTV・2011年9月21日「18-19世紀日露関係史料展示会」、ネフスカヤプレミアヤ2011年9月23日「ロシアと日本、歴史の和解」、西日本新聞2011年9月29日「大友宗麟が製造、最古の国産大砲か？ロシアの博物館に展示」、大分合同新聞2011年9月29日「初の量産化大砲 200年後、口が強奪」、毎日新聞(大分版)2011年9月29日「大友宗麟の大砲、露で発見、最古の和製と特定」、毎日新聞2011年10月17日「描かれた「倭寇」確認」、西日本新聞2011年10月18日「倭寇図巻は宗麟船団?」、北海道新聞2012年5月25日「おかゆのレシピ」、読売新聞2013年1月16日「アイヌと和人、初期の交易」、毎日新聞2013年10月9日「貴重な外交史料公開」、福島民報2013年11月5日「会津藩士の欧州留学「添状」発見」、佐賀新聞2014年1月12日「唐津藩士ら添え状携行」

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

保谷 徹 (HOYA TORU)  
東京大学・史料編纂所・教授  
研究者番号：60195518

### (2) 研究分担者

榎原雅治 (EBARA MASAHARU)  
東京大学・史料編纂所・教授  
研究者番号：40160379  
小野 将 (ONO SHO)  
東京大学・史料編纂所・准教授  
研究者番号：70272507  
須田牧子 (SUDA MAKIKO)  
東京大学・史料編纂所・助教  
研究者番号：60431798  
佐藤雄介 (SATO YUSUKE)  
東京大学・史料編纂所・助教  
研究者番号：20624307

### (3) 連携研究者

東 俊佑 (AZUMA SHUNSUKE)  
北海道開拓記念館・学芸員

研究者番号：30370224  
川島 真 (KAWASHIMA SHIN)  
東京大学・大学院総合文化研究科・准教授  
研究者番号：90301861  
木村直樹 (KIMURA NAOKI)  
東京大学・史料編纂所・助教  
研究者番号：40323662  
久留島典子 (KURUSHIMA NORIKO)  
東京大学・史料編纂所・教授  
研究者番号：70143534  
小宮木代良 (KOMIYA KIYORA)  
東京大学・史料編纂所・教授  
研究者番号：90186809  
谷本晃久 (TANIMOTO AKIHISA)  
北海道大学・大学院文学研究科・准教授  
研究者番号：20306525  
鶴田 啓 (TSURUTA KEI)  
東京大学・史料編纂所・教授  
研究者番号：10172066  
黨 武彦 (TO TAKEHIKO)  
熊本大学・教育学部・教授  
研究者番号：80251388  
箱石 大 (HAKOISHI HIROSHI)  
東京大学・史料編纂所・准教授  
研究者番号：60251477  
麓 慎一 (FUMOTO SHINICHI)  
新潟大学・人文社会教育科学系・教授  
研究者番号：30261259  
松井洋子 (MATSUI YOKO)  
東京大学・史料編纂所・教授  
研究者番号：00181686  
松澤裕作 (MATSUZAWA YUSAKU)  
専修大学・経済学部・准教授  
研究者番号：20361652  
村井章介 (MURAI SHOSUKE)  
立正大学・文学部・教授  
研究者番号：30092349  
森田朋子 (MORITA TOMOKO)  
中部大学・人文学部・教授  
研究者番号：80293108  
横山伊徳 (YOKOYAMA YOSHINORI)  
東京大学・史料編纂所・教授  
研究者番号：90143536  
吉澤誠一郎 (YOSHIZAWA SEIICHIRO)  
東京大学・大学院人文社会系研究科・教授  
研究者番号：80272615

### (4) 研究協力者(外国籍の共同研究者など)

犬飼ほなみ (INUKAI HONAMI)  
東京大学・史料編纂所・学術支援専門職員  
有泉和子 (ARIIZUMI KAZUKO)  
東京大学・史料編纂所・学術支援専門職員  
鹿毛敏夫 (KAGE TOSHIO)  
国立新居浜高専・准教授  
神田高士 (KANDA TAKASHI)  
大分県臼杵市教育委員会

山崎 岳(YAMAZAKI TAKESHI)  
京都大学・助教  
黄荣光 (HUANG RONGGUANG)  
中国科学院・自然科学史研究所・副研究員  
陳履生 (CHEN LUSHENG)  
中国国家博物館・副館長  
朱 敏 (ZHU MIN)  
中国国家博物館・研究館員  
ワジム・クリモフ (VADIM KLIMOV)  
ロシア科学アカデミー・東洋古籍文献研究  
所・上席研究員  
アレクサンドル・ソコロフ (ALEXANDER  
SOKOLOV)  
ロシア国立歴史文書館・館長  
セルゲイ・チェルニャフスキー (SERGEY  
CHERNYAVSKIY)  
ロシア国立海軍文書館・館長